

## 「博報賞」について

「博報賞」は、児童教育現場の活性化と支援を目的として、財団創立とともにつくられました。「ことばの力を育むことで、子どもたちの成長に寄与したい」そんな想いを核として、日々教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者の「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰しています。また、その成果の共有、地道な活動の継続と拡大の支援も行っています。

国語教育 日本語教育 特別支援教育

日本文化・ふるさと共創教育

国際文化・多文化共生教育 など

### 第55回「博報賞」概要

受付期間 ※財団必着

2024年4月1日(月)～6月20日(木)

【各賞】 正賞：賞状  
副賞：博報賞100万円 功労賞50万円 奨励賞30万円  
【後援】 文部科学省

◆受賞者発表：2024年10月上旬予定  
◆贈呈式：2024年11月8日(金) 於 日本工業倶楽部(東京都千代田区)

第55回の詳細については、ホームページをご覧ください。

博報賞問合せ先  
hakuhouhou@hakuodo.co.jp



「子ども・ことば・教育」を活動領域に様々な支援を行っています。

○児童教育実践についての研究助成 ○教職育成奨学金  
○海外の子どもたちの日本語教育支援 ○世界の子どものための日本語交流  
○社会啓発事業(子どもたちの読書機会拡大) ○こども研究所

公益財団法人 博報堂教育財団

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル14階  
TEL(代表):03-6206-6266(平日9:30~17:30)

岡山県

あさかわ

ませゆき

朝川 真行(岡山中学校・岡山高等学校)

教諭

第54回「博報賞」奨励賞 受賞

## ロボット開発と小麦栽培研究による 知的好奇心を育むSTEAM教育実践

(独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動領域)

中学生・高校生の理科離れが日本で大きな課題となる中、朝川教諭は、生徒たちが科学に関する興味や関心を育めるよう、ワクワクするような真正の科学的活動を準備し、領域横断的な探究学習を展開してきた。

大きな活動の柱は3つある。一つ目は、中学校の総合的な学習の時間を利用して行った、「プログラミングで動くロボットの開発」の授業である。中学1年で「河川の堤防が決壊直後に被害を最小限にするロボットを作製しよう」、中学2年で「医療に役立つロボットを開発しよう」というテーマのもと、4人25チームで設計から開発まで担ってロボットを製作した。

二つ目は、同じく総合的な学習の時間で行った「小麦栽培研究」の授業である。高収量・高品質な栽培条件を調べるため、光(LED8色)、肥料、酸性度、土と、栽培条件の異なる24チームに分けて研究を行った。種をまいて収穫した後、脱穀し、タンパク質量を量り、分析した結果をまとめて発表を行った。



「医療に役立つロボット」成果発表会

中学1年では授業と同じ「河川の堤防が決壊直後に被害を最小限にするロボット」を、中学2年で「自宅を床上浸水から守るロボット」を完成させ、各所で発表を行い注目を集めた。



「小麦栽培研究」観察の様子

審査委員より

一般に、理科の実験は授業時数を使うし、準備にも労力や経費がかかるため、たくさん用意するのはなかなか難しい。ところが朝川教諭は、本物のワクワクに満ちた探究活動を豊富に用意し、総合的な学習の時間に取り組んだ点でユニークである。ホンモノのロボットを作製するというだけで面白そうなのに、自然災害時に被害を最小限に食い止めるためのロボット開発と言われれば、誰もが真剣に取り組みたくなるだろう。学習の必然性を的確に組織しつつ、生徒の興味・関心を最大限に刺激する、優れた教育活動である。今後の継続と発展を期待したい。